

二〇二二年一月一九日

ガラス戸に孫の手の跡冬温し
蝕戻る月皓々と冬の天
室生寺の紅葉散り敷く鎧坂
月蝕や玄閑出たり入ったり
マスクからはみ出す笑顔久の句座
奥宮へ落葉明かりを頼みけり

二〇二二年一月一八日

どんぐりを手に手に唄ふ園児どち
新藁に相寄り眠る牛と猫
よちよちの足跡のこるカーペット
綿虫にさしだす両のたなごころ
穴空きをお面と当つる朴落葉
日記買ふ藍の表紙がお気に入り
行く人を金縛りにす落葉風
潮騒を子守唄とす冬の宿
新米を掬ふ手のひらほの温き

二〇二二年一月一七日

この径のどんぐり袴ばかりかな
居並びて糶場の屋根に冬鷗
背中の子落葉に降ろし小休止
二つ三つレシピ聞きつつ柚子をもぐ
カリヨンの空に餅す街小春
若返るダウンベストは娘のおふる

二〇二二年一月一六日

行厨に交はりきたる秋の蝶
園丁の手もと小春の土香る
土ほぐす花壇の手入れ園小春

あられ
はく子
明日香
こすもす
うつき
もとこ

せつ子
智恵子
あひる
明日香
うつき
邑
むべ
もとこ
みきお

せつ子
凡士
豊実
あひる
凡士
あひる
こすもす
あひる
明日香

苑小春お散歩カーから手を振られ
ゴトゴトとトロッコ登るみかん山
園児らの飛び石渡る池小春
川底をくれないに敷く散紅葉
紅灰と残して枯るる七変化
社家街の戸ごとに並ぶ菊の鉢

二〇二二年一月一五日

風邪気味の夜の祝杯は玉子酒
母の肩揉めば背中に木の葉髪
放棄田を埋めし草も枯れにけり
ねこ車押す影長き枯野道
ヒーローの面つけ帰る七五三

二〇二二年一月一四日

月と星入れて灰めく冬夕焼
日の入りの遅き離島の冬夕焼
鍬と蕪洗ひて仕舞ふ畑仕事
冬の蝶風に煽られ消えにけり
四冠の若き棋士祝ぐ卓の菊
袴着の雪駄引きぎり七五三
黄蝶きて石路の黄に紛れけり

二〇二二年一月一三日

栄枯知る古道の松の色変へず
窓拭きて部屋に取り込む小春かな
わたばこり焼くる匂ひや初炬燵
コンビニのレジに湯気立つおでん鍋

むべ
智恵子
凡士
満天
明日香
菜々

あひる
素秀
明日香
明日香
なつき

はく子
もとこ
みきお
みきお
せいじ
素秀
明日香

たか子
智恵子
素秀
凡士

毎日句会みのる選・二〇二二年一月二日